
遊戯王-OSs

歪な怠惰を貪る暇人。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 - O S S

【Nコード】

N 0 0 9 3 P

【作者名】

歪な怠惰を貪る暇人。

【あらすじ】

近未来の日本・・・架空の都市なんかを舞台に、主人公達が”普通”に闘います。ただ純粹に面白い勝負を書いていく予定です。オリカなんかは出さない方向で・・・

第一話 白龍と海竜（前書き）

一応、ストーリーはどうでもいい！ただ面白い勝負が見たい！という方に向けて書いてみました。なので話がちゃんと続くかすら怪しいですww

因みに原作キャラと絡む予定はありませんのであしからず。

作者は初投稿の上に表現が変なので読める方だけ読んで頂ければ幸いです・・・

感想なんかも頂ければ幸いです（・|・）♪

第一話 白龍と海竜

「「デュエル
決闘！！」」

波の音以外聞こえない静かな丘の上で今、真剣勝負が始まった――

時は近未来、遊戯王OCGが世界的に人気を集めていた。

関連技術等にも投資がなされ、ついにはソリッドビジョンシステムすら再現された時代。

普通では有り得ない”プロリーグ”まで創られ、一種のエンターテインメントになりつつあった・・・

舞台は日本、大きな都市から離れた小さな街。
街唯一の私立学校である上坂^{じょうさか}デュエルアカデミア・・・

そこはプロ決闘者を世に輩出するため、試験的に設立された専門学校だ。

物語はその一生徒が辿る一つの凡骨道――

潮風が吹く中、丘の上には三つの人影。

一人は制服の上から羽織った紺のコートが印象的で、やや粗暴さを醸す顔立ちの男。

主人公の好敵手である『滝沢 昇』が問う。

「先攻はオレが貰うぜ？」

「ああ、いいぞ」

それに対して『皆藤 仁』が答える。

こちらは黒の制服をやや着崩しており、顔は所謂格好良い奴だ。

好きにしろと頷く仁と、にやりと笑う昇。それを少し離れて見つめる少女。

お約束な可愛い制服が似合う、お約束な美少女、名前は『雛ヶ守 鳥』という。

さらに――お約束なことに三人は幼馴染だ。

仁

LP：4000

昇

LP：4000

昇の先攻で決闘はスタートした。

「オレのターン、ドロー！」

ドローカードを見た昇は、そのままそのカードをプレイする。

「”グリズリーマザー”を攻撃表示で召喚！」

グリズリーマザー

ATK / 1400

ソリッドビジョンにより青い熊が姿を現す。

さらに手札からカードを取り出し、セットした。

「カードを1枚伏せてターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー！」

カードを手札に加えた仁は考える。

今まで幾度となく勝負してきた相手だけに、ある程度の戦術は読める。

（グリズリーであいつが呼び出すとすればコダロスか・・・）

「俺は”デュナミス・ヴァルキリア”を攻撃表示で召喚！」

デュナミス・ヴァルキリア

ATK / 1800

光を纏った凛々しい天使が下り立つ。
攻撃力では相手を圧倒している。

（攻撃力では勝ってるけどリバースカードがある・・・）

と、鳥は普通に考える。

が、仁は全く気にしていなかった。

「デユナミスでグリズリーマザーを攻撃！！」

デユミナス・ヴァルキリア

ATK / 1800

VS

グリズリーマザー

ATK / 1400

「伏せカードを気にせず来るとはな！トラップ発動、”ガードブロ
ック”！」

モンスターを破壊し、そのまま昇に向かっていた天使が半透明の障
壁に阻まれる。

「やっぱり・・・！」

「この効果によりこの戦闘での俺へのダメージを0にし、カードを
1枚ドローする！」

昇：手札5枚

「さあ、何が出る・・・？」

因みに”グリズリーマザー”は戦闘破壊時、デッキから攻撃力1500以下の水属性モンスターを攻撃表示で特種召喚することができる。

「オレは墓地に送られたグリズリーの効果で、デッキから”グリズリーマザー”を攻撃表示で特種召喚！」

「え！？コダロスじゃない！？」

もちろん鳥も2人のデッキをよく知っている。

故に当然ここではコダロスが来ると予想していた。しかし驚いたのは鳥だけ、仁は眉一つ動かさない。

（——手札にアトランティスが来てないのか、もしくは・・・）

仁は手札からカードを1枚取る。

「カードを1枚セット、ターンエンド」

「オレのターン！」

ドローしたカードを見た昇はにやりと笑った。

「オレの手を読みきれたかな？」コダロス”を召喚！」

コダロス

ATK/1400

昇のフィールドに小さな蒼い竜の様なモンスターが現れる。

「やはり手札にいたか・・・！」

仁はほぼ予想道理だったようだ。
そして鳥はようやく気付いた。

「じゃあまさか、アトランティスも手札に！？」

「その通り！手札よりフィールド魔法、”伝説の都アトランティス^{でんせつ みやこ}”発動！！」

地面が海のように変わり、その下に海底遺跡が見える。

それと共にフィールドの水属性モンスターは青いオーラを纏う。

コダロス

ATK / 1400

←>アトランティスの効果により上昇<

ATK / 1600

グリズリーマザー

ATK / 1400

←>アトランティスの効果により上昇<

ATK / 1600

「でもまだデミナスの攻撃力には勝てない、やっぱり狙いは・・・」

鳥が呟くように言った。

「コダロスの効果発動！自分フィールド上の”海^{うみ}”を墓地に送ることとで相手フィールド上のカードを2枚まで墓地へ送ることができる！！」

「アトランティスは”海”として扱う・・・」

仁は驚いた様子もなく呟く。

「ああ、貴様も知つての通りだ。効果発動、アトランティスを墓地に送り貴様のモンスターと伏せカードを墓地へ送る！」

コダロスが吠えると、海と化していたフィールドに津波が起こる。

「いけ、コダロス！ミニマムウェーブ！！」

「読み通りだ！カウンタートラップ”天罰”てんばつ発動！」

突如空から雷が落ちてコダロスが破壊される。

「なっ！？」

「手札1枚をコストに、効果モンスター1体の発動と効果を無効にして破壊する！」

仁：手札3枚

モンスターを飲み込もうとしていた波は静まり、アトランティスがなくなったことでフィールドも元に戻った。

「チツ、流石だな。だがこれで貴様の場はモンスターののみ！フィールド魔法、”ウォーターワールド”を発動！」

「あれは、水属性の攻撃力を500アップさせるフィールド魔法！」

鳥が解説するように言う。

グリスリーマザー

ATK / 1400

←>ウォーターワールドの効果で上昇<

ATK / 1900

「グリスリーでデュミナスを攻撃!!」

グリスリーマザー

ATK / 1900

vs

デュナミス・ヴァルキリア

ATK / 1800

「くっ・・・!!」

仁

LP : 4000 ↓ 3900

「カードを1枚伏せる・・・ターンエンド」

「俺のターンだな、ドロー!!」

(よし、これなら・・・)

「"ジェネティク・ワーウルフ"を攻撃表示で召喚!!」

ジェネティク・ワーウルフ

ATK / 2000

「ワーウルフでグリズリーを攻撃!!」

ジエネティック・ワーウルフ

ATK / 2000

vs

グリズリーマザー

ATK / 1900

「フツ・・・この程度」

昇

LP : 4000 ↓ 3900

「グリズリーの効果発動! 戦闘で墓地に送られた時、攻撃力1500以下の水属性モンスター1体をデッキから特種召喚する!」

昇はデッキから選んだカードを召喚する。それは深海魚のような姿をしていた。

「こい!」ヒゲアンコウ!」

ヒゲアンコウ

ATK / 1500

←>ウォーターワールドの効果により上昇<

ATK / 2000

「うわぁ、仁!これじゃダイダロスがくるよ!?」

鳥の言葉にわかってる、と短く答えつつ仁は考える。

「・・・！ いや、なんとか耐えられる・・・！」

そう呟いた仁はカードを1枚セットする。

その瞳からまだ諦めていないことが見て取れた。

「カードをセット、ターンエンド」

「オレのターン・・・！」

ドローカードを見た昇は、勝ったと呟いた。

「さあ、いくぜ！！まずは伏せカードをオープン！」忘却の海底神
殿”！！」
殿”！！」

「なに！？しまった・・・！」

”忘却の海底神殿”はフィールド上に存在する限りカード名を”海
”として扱う永続トラップだ。

「さらにオレは”ヒゲアンコウ”を生け贄に捧げる！」

ヒゲアンコウが光に包まれ、扉を形作る。

「そして”ヒゲアンコウ”の効果！このカードを水属性モンスター
の生け贄召喚のコストにする時、2体分のコストとなる！」

この効果により、通常2体の生け贄が必要な七ツ星以上の水属性モ
ンスターを”ヒゲアンコウ”1体のみでアドバンス召喚が可能とな
る。

「来るか・・・！」

「暗き深海よりその姿を現せ！」リバイアドラゴン「海竜-ダイダロス」！！」

ゲート扉が大きく広がり、そこから禍々しくも神々しい姿をもった龍が現れた。

リバイアドラゴン海竜-ダイダロス

ATK / 2600

←>ウォーターワールドの効果により上昇<

ATK / 3100

「うわ、でたあ！！」

「ダイダロスの効果発動！自分フィールド上の”海”を墓地に送る事で、自身以外のフィールド上のカードを全て破壊する！！」

「くそっ・・・！！」

「オレは海底神殿を墓地に送る！ダイダロスよ全てを飲み込め！ダイダルウェーブ！！」

コダロスの時とは比べ物にならない大波が向かってくる。

「っ・・・！！ダイダロスの効果にチェーンして速効魔法発動！」リバースカードオープン「収縮」！！」しゅうくちやく

仁はセットしていたカードを発動する。”収縮”は選択したモンスター1体の元々の攻撃力をそのターンのエンドフェイズまで半分に

する速効魔法。

「俺は”海竜リバイアドラゴン-ダイダロス”を選択！」

海竜リバイアドラゴン-ダイダロス

ATK / 2600

← 収縮の効果で攻撃力半減く

ATK / 1300

ダイダロスの体が半分ほどに縮むが、大波が全てを飲み込み破壊した。

「やってくれる・・・！手札より魔法カード”死者蘇生しっやそせい”を発動！貴様の墓地の”ジェネティク・ワーウルフ”を攻撃表示でオレのフイールドに特殊召喚！！」

ジェネティク・ワーウルフ

ATK / 2000

「うっわぁ・・・」

「こいつはマズいな・・・」

ここにきてやっと仁の顔が歪む。

「ワーウルフで仁に直接攻撃！！」ダイレクトアタック

ジェネティク・ワーウルフ

ATK / 2000

「ぐ・・・!!」

仁

LP : 3900 ↓ 1900

「さらにダイダロスで直接攻撃!!」
ダイレクトアタック

リバイアトラゴン

海竜 - ダイダロス

ATK / 1300

「っ・・・!!」

仁

LP : 1900 ↓ 600

「エンドフェイズ、ダイダロスの攻撃力は元に戻る」

リバイアトラゴン

海竜 - ダイダロス

ATK / 1300

←>収縮の効果が終了<

ATK / 2600

「ターンエンド、どうだ？貴様のLPは残り600、オレの勝ちだな！」

昇の勝利宣言に対して仁は不敵に笑う。

「まだ0じゃあないさ・・・!!」

そう言っただけでカードを見て、仁はさらに笑った。

「ははっ！まだ終わらない！俺は”音速ダック”^{ソニック}を攻撃表示で召喚
！！」

音速ダック^{ソニック}

ATK / 1700

「お、ダックだ！」

鳥は可愛いかどうか微妙なモンスターが特に好きらしい（本人談）。

「そのカードは確か、お前のお気^{フエイバリット}に入りだったな！だが攻撃力の低い
そいつでどうする！？」

「こうするさ！手札より、装備魔法”下克上^{げいげきじょう}の首飾り（くびかざり）
”を”音速ダック”^{ソニック}に装備！！」

音速ダック^{ソニック}の首に眼を模した首飾りが現れた。

「ッ、あれは確か・・・！」

「このカードは通常モンスターにのみ装備可能で、戦闘を行う相手
モンスターと装備モンスターの星^{レベル}の差×500だけ装備モンスターの
攻撃力をアップさせる！」

音速ダック^{ソニック}・星^{レベル}3

「つてことはダイダロス^{レベル}が星7だから・・・」

言いながら鳥は暗算する。

「^{レベル}星差4×500で2000アップの・・・攻撃力3700!?!」

さっきまで余裕の表情だった昇の顔が引きつる。

「反撃開始だ!ダックでダイダロスを攻撃、^{ソニック・ブーム}音速衝撃波!」

^{ソニック}音速ダック

ATK / 1700

←>下克上の首飾りの効果により攻撃力2000アップ<

ATK / 3700

^{ソニック}音速ダック

ATK / 3700

VS

^{リバイアドラゴン}

海竜 - ダイダロス

ATK / 2600

首飾りからの光を纏った^{ソニック}音速ダックは真正面からダイダロスに突撃、
自分の倍以上あるモンスターを見事に粉碎した。

「ぐあっ・・・!!!」

昇

LP : 3900 ↓ 2800

「カードを一枚セットしてターンエンド」

「くっ・・・!オレのターン!」

ドローしたカードを見るなり昇は頷いた。

「よし！オレは”伝説の都アトランティス”を発動！」
「さらに手札から”コダロス”を召喚！」

コダロス

ATK/1400

←アトランティスの効果により上昇<

ATK/1600

「わ！？2匹目！」

「不味いな、仕方がないか・・^{トラップ}罨カード発動！」
「^{げきりゅうそう}激流葬”！！！」

「なっ！？くそっ・・！」

「”激流葬”はモンスターが召喚に成功したとき、フィールド上のすべてのモンスターを破壊するトラップ！」

上方から大量の水が激流となって降り注いだ。

フィールドに残ったのはアトランティスのみで、お互いに手札もなし。

「くっ、オレはターン終了だ。」

「俺のターン、ドロー！」

「フッ、リバーズカードを一枚セットしてターンエンド」

（仁の場にリバーズカードは一枚、昇がモンスターを引くことができれば勝つかもしれない・・）

「オレのターン！ドロー！！」

（モンスターじゃない・・・！だが”死者^{ししやてんせい}転生”！！）

”死者転生”は手札1枚をコストに墓地からモンスター1体を手札に加えることができる。

（これで次のターンにコダロスを呼び戻せばセットカードなど問題ない・・・！！）

「オレはこのままターンエンドだ！さあ、次が貴様のラストターンだぜ？」

恐らくキーカードを引いたのだろっ、昇が強気に出る。

「俺のターンか・・・」

仁がそう言っただけでカードをドローする。

（奴は伏せカード1枚にドローカードのみ・・・2800のLPを一気に削るのは難しいハズ、オレの勝ちだ・・・！！）

「ドロー！！」

「・・・モンスターか！？」

昇が問う。

「ああモンスターだ、オレの最上級のな」

今まで口をはさめなかった鳥がここぞとばかりに声を出す。

「じ、じゃあ”青眼の白龍”だね！」
ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴン

「——くくつ・・・！オレの勝ちだなあ、仁！！」

昇が勝ち誇る。

「貴様の場は伏せカード1枚！次のオレのターン、コダロスでそれを破壊すれば俺の勝ちだ！！」

仁は笑う。

「甘いな、昇。俺のセットカードはただの魔法カードだぜ？」
マジック

「あん？なんだ、騙しだったのかよ」
フラフ

「え？魔法・・・？」

鳥が何かに気づいたように考え込む。

「・・・！！まさか！？貴様そのカードは！！！」

が、先に昇が何かに気づいたらしい。

「そのまさかかもな・・・お前の宣言通り、これがラストターンだ！」

「ああ、あれか！」

遅ればせながら鳥も気づいたようだ。

「魔法カード発動！」リバースカードオープン 古のルール”！！！”いにしえ

「やはりか・・・！！！」

「古のルール”は手札の星5レベル以上の通常モンスター1体を特殊召喚する！」いにしえ

発動とともに仁の後ろに古代の文字が刻まれた石板が浮かぶ。

「古き掟に従いて、悠久の刻を越えて舞い降りろ！」とき 青眼の白龍”ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴン

青眼の白龍
ATK / 3000
ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴン

白銀の翼を広げて一頭の美しいドラゴンが降りて来る。瞳は蒼く鋭く輝き、見る者凡てを魅了する。

「おおー！効果なしの最強モンスター登場！！！」パニラ

何故か鳥が盛り上がっている。

「くっそ・・・！！！」

どうしようもなくなった昇が唸る。

「これで終いだ、ブルーアイズで昇に直接攻撃！」ダイレクトアタック

「くっ・・・！」

「おお・・・！」

「総てを焼尽くせ！滅びの炸裂疾風弾！！」
バーストストリーム

ブルーアイズが昇に向かって輝くプレスを放った。

ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴン
”青眼の白龍”

ATK / 3000

昇

LP : 2800 ↓ 0

光が終息した後、昇は膝をついていた――

第一話 白龍と海竜（後書き）

キャラが定まらない・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0093p/>

遊戯王-OSs

2010年12月25日18時59分発行